



受賞歴（2017年）

◆フィリピン政府 社会福祉開発省（DSWD）『Salamat Po Award』

メディア掲載情報（2017年）

◆日刊まにら新聞（2017年11月11日）『子どもの自立支援目指す』

◆GMA Network 『MARS』 ※フィリピンで人気のトーク番組



団体概要

団体名：特定非営利活動法人アクション（英語名：ACTION inc.）

代表：横田 宗（よこた はじめ）

設立：1994年 / 法人登記：2002年

webサイト

日本語版：<http://www.actionman.jp/>

英語版：<http://www.action.org.ph/>

■日本事務局（常勤職員2名、非常勤職員1名）

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町3-10-1 パールハイツタカハシ1F

■オロンガポ事務局（日本人職員1名、フィリピン人職員10名）

ACTION Inc./ Chikara Project Studio

Unit No.9-A 4th Floor, RM Cneter Point Mall, Rizal Avenue, Cor Magsaysay Drive,
East Tapinac, Olongapo City, Philippines 2200

■マニラ事務局（フィリピン人職員4名）

MANILA OFFICE/ Chikara Project Studio,

1019 A101 EDSA Ave, Project 7, Vetelans Vill, Quezon City, Metro Manila, Philippines

■エコミスモ事務局

2nd floor 17E N. Naval st, Brgy Flores, Malabon city Metro Manila, Philippines 1471

平成29年度事業報告

特定非営利活動法人 アクション



代表挨拶



2017年も多くの方にご支援、ご協力を頂き活動を実施することができました。スタッフ一同、そして皆様が応援して下さいている子ども達に代わりお礼申し上げます。

2017年3月にフィリピンの社会福祉開発省より、社会福祉の向上に貢献した団体に送られるSALAMAT PO AWARD (ありがとう賞) がタギワロ大臣よりアクションに送られました。日本の団体に送られるのはJICA (国際協力機構) に次いで2団体目。NGOとしては初めての受賞です。日本財団や国際交流基金等、日本では賞を頂いた事がありました。フィリピン政府より活動を評価して頂いたのはまた違った嬉しさがあります。5月にはハサミノチカラアカデミー1期生の卒業式を日本で開催。3名の子ども達が来日し卒業式に参加しました。ハサミノチカラメンバーをはじめ、美容メーカー、多くの美容院、美容学校、美容関係メディアなどまさしく日本の美容業界のチカラが集まって実施することが出来た卒業式でした。3名の子ども達のために100人を越える大人達がチカラを合わせる。そして子ども達の感謝の言葉に涙を流す。そんな素敵な式でした。セラピストの育成を実施している癒しのチカラでは日本リラクゼーション業協会とフィリピンで初めてとなる「第1回セラピストスピーチコンテスト」をマニラ事務所で開催。経験者の部と新人の部それぞれの優勝者が10月に日本で開催された「リラクゼーションコンテスト2017」へ招待枠で参加。1,000名の観客の前でセラピストとしての想いをスピーチしてくれました。JICAの草の根パートナー事業として実施している「ハウスペアレント能力強化研修」は折り返し地点を過ぎました。マニラでは17施設のソーシャルワーカー及び

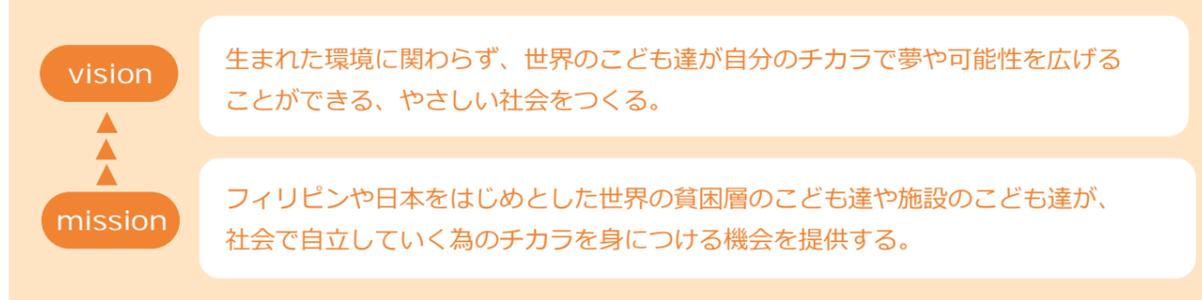
ハウスペアレントに対して研修を実施し、とても良いフィードバックを頂いています。フィリピンの他の地域からも研修を実施して欲しいという声が届くようになりました。この事業を通して、少しでも施設の子ども達を取り巻く環境を整えていければと思っています。日本側では子ども達の学習支援教室「コドリーム」が徐々に軌道に乗り始め、事務所からは毎日子ども達の賑やかな声が聞こえています。また、東京の立川にある児童養護施設「至誠大地の家」でも算数の学習指導を実施する事が決まり、フィリピンだけではなく日本の施設でも活動が始まっています。フィリピンでの経験を日本に活かす。そう思いながら実施して来た活動が形になりはじめています。活動を開始してから23年間。どんなにしたい活動があっても、フィリピンの子ども達や施設、地域の方に受け入れて頂ければ活動を続ける事は出来ませんでした。何も知らない高校生だった私を受け入れてくれたジャイラホーム。アクションの活動を応援してくださる日本の皆様。そして子ども達の未来が豊かなものになるようにと活動を続けてくれる、日本とフィリピン事務局のスタッフ。頂いた「ありがとう賞」は関わって来た多くの方々からの「ありがとう、これからもよろしく！」という意気だと思っています。2018年はこれまで積み重ねて来た活動を確実に継続していき、子ども達により良い環境を提供していくと共に、これまで以上に日本とフィリピンそれぞれの活動をそれぞれの国の方々に応援して頂けるように、新しい取り組みにもチャレンジして行きたいと思っています。引き続き、応援のほどよろしくお願い致します。

NPO法人アクション 横田 宗

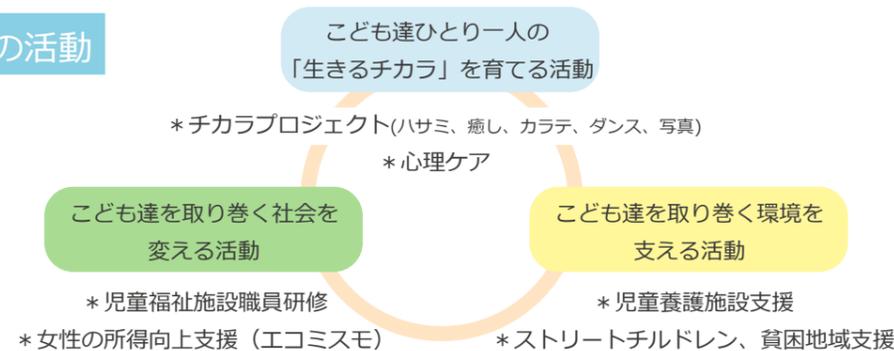
2017年活動概要

1994年、ピナトウボ火山の噴火で被災した孤児院の修繕作業から始まったNPO法人アクションの活動は、児童養護施設やストリートチルドレンのための支援へと広がりました。アクションは現在、子ども達への支援と子ども達を取り巻く社会に対する活動を行っています。生まれた環境に関わらず、世界の子ども達が自分のチカラで夢や可能性を広げることができるやさしい社会をつくるため、2017年は以下の活動を行いました。

アクションの活動理念



フィリピンでの活動



チカラプロジェクト	施設や貧困地域の子ども達に対して、子ども達が自分自身で自立に向かうチカラを付けることを目標に、職業訓練のハサミノチカラ (美容師養成) と癒しのチカラ (セラピスト養成)、情操教育のダンスのチカラと空手のチカラを実施。
心理ケア	施設の子ども達が心に抱える課題と向き合うために、心理ケアプログラムを実施。
児童福祉施設職員研修	施設の子ども達がよりよい環境で生活できるように、中部ルソン地域とマニラ首都圏の計12~17施設の職員に対して研修を実施。* JICA草の根パートナー事業
女性の所得向上支援	マニラとオロンガポ市にて、経済的貧困により家庭での養育が不十分な子ども達を支援するために、貧困地域の母親のフェアトレード製品製作事業を実施。
児童養護施設支援	主に児童養護施設ジャイラホームにて、朝食支援や学用品支援、施設の修繕を実施。
ストリートチルドレン / 貧困地域支援	現地NGOタタッグと提携し、ストリートチルドレン向けの青空教室を実施。

日本での活動

海外ボランティア	国際協力への関心を高めると共にフィリピンの子ども達にボランティア派遣を実施。
国際理解教育	武蔵野市教育委員会主催「土曜学校世界を知る会」や学校での授業で国際理解教育を実施。
学習支援	経済的貧困を抱える日本の子どもや児童養護施設の子どもに対して学習支援を実施。
チカラプロジェクトinジャパン	日本の児童養護施設でのチカラプロジェクトの実施及び、日本の店舗に募金箱を設置する。



チカラプロジェクト

職業訓練と情操教育で 自立に必要なチカラをつける！

貧困地域で暮らすこどもやストリートチルドレン、児童養護施設で暮らすこどもの「生きるチカラ」を育てるチカラプロジェクトでは、職業訓練や情操教育を実施しています。こども達が将来、社会で自立できるように、チカラプロジェクトを通して自分に自信を持てる体験を積み重ねる機会を提供しています。チカラプロジェクトでは、以下のプログラムを提供しています。

提供しているプログラム

<職業訓練>

- ハサミノチカラ 美容師になるための知識や技術を身に付ける
- 癒しのチカラ セラピストになるための知識や技術を身に付ける

<情操教育>

- 空手のチカラ 物事を成し遂げる経験や、礼儀を身に付ける
- ダンスのチカラ 自分を表現する方法や協調性を身に付ける
- 心のチカラ こども達が抱える心理的課題の解決を目指す



ハサミノチカラ

開催場所：オロンガボ市・マニラ / 実施回数：63回 / 参加人数：17名

オロンガボ市とマニラでハサミノチカラアカデミーを開催しています。チカラスタジオinオロンガボでは、毎週土曜日に約3時間、ヘアカット等の練習を実施しています。4月には1期生から4期生の全員が参加したトレーニングキャンプを実施しました。トレーニングキャンプでは、一流の技術を持つ日本とフィリピンの美容師の方々から指導を受け、各自技術の向上のために練習に励みました。また、5月には1期生3名を東京に招いて、ハサミノチカラアカデミーの第1回卒業式を行いました。8日間の滞在中、卒業式だけでなくトレーニングキャンプで講師を務めてくださっている方々のサロンで実習も行い、普段の練習では学ぶことができない現場ならではの学びを得ることができました。



癒しのチカラ

開催場所：オロンガボ市・マニラ / 実施回数：226回 / 参加人数：141名

美容系専門求人サイトリジョブ様の「咲くらプロジェクト」がスポンサーであるセラピスト養成プロジェクトも3年目に突入。2015年7月から無料セラピスト養成講座を地域の方々に提供しています。指圧やオイルを使ったスウェーデン式マッサージ、フィリピンの伝統的なマッサージ等を学ぶ3か月間のトレーニングを終え、筆記と実技試験を合格した後に卒業証明書を授与されると、マッサージサロンで働くことができます。今年オロンガボだけでなくマニラでも養成講座に多くの方が参加してくださり、延べ141名がプログラムを受講しました。7月にはリラクゼーションコンテストinフィリピンを開催し、養成講座に参加した方々がスピーチを行いました。優勝者2名は10月に行われたリラクゼーションコンテスト JAPAN2017に招待され、800名以上の方の前でスピーチをさせて頂きました。



空手のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：406回 / 参加人数：86名

2014年に空手のチカラが始まった当時、参加者は全員が自分のジャージを着て練習に参加していました。しかし、現在では、昇級審査に合格し道着をもらうことができ、約7割のこどもが道着を着て日々の稽古に励んでいます。5月には空手のチカラに参加するこども21名と指導者1名が大会に出場しました。大会では4名が入賞することができ、メダルやトロフィーを手に入れることができました。日々の厳しい稽古の成果を出すことができ、こども達にとっては大きな自信となったようです。また、今回は入賞できなかったこども達にとっても、次の目標ができる良い機会となりました。



ダンスのチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：295回 / 参加人数：102名

フィリピンにはダンスが好きなこども達が多いため、ダンスのチカラはチカラプロジェクトの中でもこども達に人気のプログラムです。児童養護施設のこども達やストリートチルドレンや貧困地域のこども達の他に、聾唖のこども達もダンスのチカラに参加をしており、ダンスを通じて協調性を身に付けたり、好きなことに打ち込むことでストレスを発散したり、それぞれダンスのチカラのレッスンを楽しんでいます。7月にはチカラプロジェクトの発表会でダンスを披露しました。



心のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：18回 / 参加人数17名

心理ケアと自立して生きていく為に必要なチカラを身につけることを目標に、児童養護施設で実施している「心のチカラ」では、アクションの心理ケア担当スタッフが「ソーシャルスキル向上プログラム」を実施しています。図画工作、環境教育、料理教室等を通して、こども達が楽しく自立に必要なチカラを身に付けることができるプログラムを実施しました。6月に2日間に渡って開催された運動会では、チーム対抗リレーや綱引き、プールでの借り物競争など、こども達が盛り上がる方法でチームワークや協調性を学ぶことができました。今後もこども達が楽しみながら「生きるチカラ」を身につけることができるアクティビティを提供すると共に、活動を通して心理ケアを実施していきます。



[次年度に向けて]

全てのチカラプログラムで、今年度と同様の内容を実施予定ですが、次年度は一般財団法人日本国際協力システム（JICS）様の助成により、「心のチカラ」を児童養護施設のこども達だけでなく、ハサミ・空手・ダンスのチカラに参加をしている貧困地域で暮らすこどもやストリートチルドレンに対しても実施します。それぞれのチカラプログラムをより充実させ、こども達がより多くのチカラを身に付けられる機会を提供していきます。

事業内容：	こども達への職業訓練及び情操教育で、生きるチカラを育む「チカラプロジェクト」
受益者層：	児童養護施設のこども、貧困地域のこども、ストリートチルドレン、貧困地域の大人
担当者：	山本浩平、Lindsay Jhen Kurais、Michelle Tayao



第2フェーズJICA草の根事業本格スタート

(2016年10月～2019年8月)

本事業は2012年～2015年に実施した児童養護施設職員のための能力強化事業に続く事業として2016年10月よりスタートしました。児童養護施設で暮らすこども達を取り巻く環境の改善を目指し、マニラ首都圏と中部ルソン地域で児童養護施設の養育体制強化及びフィリピン行政機関に対する「ハウスペアレント研修規定」の提案を行います。

児童養護施設職員に対する能力強化研修実施

第1フェーズに中部ルソン地域で実施した施設職員向け能力強化研修をマニラ首都圏に展開。前事業で開発した研修教材に地域性を考慮した改良を加えながら養護施設職員に対する能力強化研修を実施。マニラ首都圏の18施設がパートナー施設として事業に参加。パートナー施設より研修に参加した施設職員はこどもの権利や関連法律などに関する知識、こどものハンドリングなどの日々の業務に役立つ技術を学びました。



2017年に実施した活動

- * 施設職員向け能力強化研修に関するオリエンテーションの実施 (2017年5月)
社会福祉開発省の担当職員、パートナー施設の施設長を対象としたオリエンテーションを実施。本事業の目的、活動内容、実施スケジュール等を説明。
- * 対象施設に対するベースライン調査・研修ニーズ調査の実施 (2017年4月～6月)
マニラ首都圏の児童養護施設18施設で実施。
施設長、施設職員、施設で暮らすこども達を対象に調査を実施し、施設の現状・ニーズを把握。
- * ソーシャルワーカー向けマスタートレーナー研修 (2017年8月)
ソーシャルワーカーを対象とした施設職員向け能力強化研修の指導員育成のための研修を実施。
マニラ首都圏の16施設より20名のソーシャルワーカーが参加。
- * ハウスペアレント向け能力強化研修 (2017年9月～10月)
全10モジュールで構成された施設職員向け能力強化研修を実施。
マニラ首都圏の17施設より52名のハウスペアレンが全研修課程を修了。

事業内容： 児童養護施設職員のための能力強化研修の実施とフィリピン全土での研修実施を目指した政策提言
受益者層： マニラ首都圏にある児童養護施設のソーシャルワーカー及びハウスペアレント
担当者： 横田宗、山本浩平、フィリピン事務局スタッフ7名

児童養護施設のこども達の成長と自立を促進

第1フェーズの事業地であった中部ルソン地域においてこども達の成長と自立を促進するための活動を展開。前事業で実施した能力強化研修を受けたソーシャルワーカーとハウスペアレントを対象にこどものためのアクティビティマネジメント研修を実施。研修で学んだ内容を踏まえ、ソーシャルワーカーとハウスペアレントによる施設のこども達に向けたライフスキル向上のためのアクティビティを実施します。施設で暮らすこども達の施設退所後の生活を見据え、こども達がライフスキルを取得できるようにサポートを行います。本事業には中部ルソン地域の36施設がパートナー施設として参加しています。



2017年に実施した活動 (中部ルソン地域)

- * 対象施設のこども達、施設長・施設職員に対するニーズ調査の実施 (2017年4月～7月)
中部ルソン地域の施設の272名のこども達、96名の施設長・施設職員に対して実施。
施設や施設に暮らすこども達の現状とニーズを把握。
- * ライフスキルマネジメント研修 (2017年9月～11月)
中部ルソン地域の施設の83名のソーシャルワーカー・ハウスペアレントが参加。
こども達に向けたライフスキル向上のためのアクティビティ実施に必要な技術を学ぶ。

[次年度に向けて]

- <マニラ首都圏>
第2回施設職員向け能力強化研修を実施し、児童養護施設の養育体制を強化していくと共に、「ハウスペアレント研修規定」の制定に向けた提言書の作成・社会福祉開発省長官へ提出。
- <中部ルソン地域>
研修を受けた施設職員によるこども達に向けたライフスキル向上のためのアクティビティを実施。

事業内容： 児童養護施設のための能力強化研修とこども達のためのライフスキル向上アクティビティの実施
受益者層： 中部ルソン地域にある児童養護施設のソーシャルワーカー・ハウスペアレント及びこども達
担当者： 横田宗、山本浩平、フィリピン事務局スタッフ7名



児童養護施設支援

心・体・教育の面で こども達の健全な育成をサポート

当団体が支援しているジャイラホームでは5歳から16歳の17名のこども達が生活をしています。創設者であるフィリピン人牧師ジョエル氏夫妻と2名のハウスペアレント、1名の社会福祉士が貧困・虐待・育児放棄・孤児など様々な背景をもつこども達が健全な成長ができるようにお世話をしています。

心の育成 (心理ケア・空手・ダンス)

複雑な背景をもって入所してくるこども達は感情のコントロールが上手くできなかつたり、周りの人とのコミュニケーションをとる能力が不十分であるなどの問題を抱えています。当団体では、担当スタッフによる心理ケアやフィリピン人インストラクターによるダンス・空手のレッスンを通して、こども達が自主性・協調性・社交性などのソーシャルスキルを学ぶ機会を提供しています。また、救急対応訓練や料理講習、スポーツフェスティバルなど、こども達が生きていくうえで必要な能力(ライフスキル)を身につけるためのアクティビティも実施しました。

学力の育成 (教育支援)

施設に入所してくるこども達は十分な教育を受けられずに入所してきたこども達もいます。しっかりとした教育はこども達が将来社会で生活をしていくうえで必要不可欠なものであります。当団体は児童養護施設で暮らすこども達が等しく教育の機会を得て、将来の可能性を広げることができるように支援を行っています。今年度は学生団体YELL様の支援により、幼稚園や小学校・高校に通う16名のこども達のために、ノートや筆記用具、バッグ、制服、靴などの新学年で使う学用品の支援を実施しました。



体の育成 (朝食支援)

栄養のある食事はこども達の成長にとって欠かせないものです。毎日の食事を通してこども達は勉強や遊びに必要なエネルギーを摂取します。今年度は個人スポンサーの支援により、9月～12月の約3ヶ月間の食事支援を実施しました。栄養のある食事により、こども達は毎日元気に生活することができました。

[次年度に向けて]

2018年は引き続き心理ケア、ダンス・空手のレッスンを行うと共に、教育支援、クラウドファンディングによる施設修繕、海外ボランティアでのイベント企画の実施などを予定しています。こども達がより良い環境のもとで生活し成長できるようサポートしていきます。

事業内容：児童養護施設支援(チカラプロジェクト、朝食支援、教育支援)
受益者層：児童養護施設に入所してるこども13名
担当者：山本浩平、Tayao, Michelle, Kurais, Lindsay Jhen M.

奨学金、給食支援、青空教室で こども達の健全な育成をサポート

2005年よりストリートチルドレン・貧困地域支援、児童の権利の啓発等の活動を行っている現地NGO・タタッグ(Tayo Ang Tinig At Gabay (TATAG) = 私達自身が声であり道である)と提携し、ストリートチルドレンや貧困地域のこども達の支援を行っています。



青空教室の実施、給食支援

春と夏の海外ボランティア事業開催時には、日本人ボランティアと一緒にこども達に対して青空教室を実施しました。また、フィリピンのこども達と日本人ボランティアが共に学ぶワークショップも実施しました。家庭や学校におけるフィリピンと日本の違い、災害時における違いなどを発表しあい、互いの国についての国際理解と異文化交流を深めました。

92名に学用品支援を実施

Pacific English Club(PEC)様、有志の皆様のご支援により、92名のストリートチルドレンと貧困地域のこども達に向けて新学期に必要な学用品を配布しました。

9名のこども達への奨学支援

今年度もGrowing People's Will様と3名の個人スポンサーの皆様から支援をいただき、奨学生9名(うち1名が家庭の事情により今年度は休学中)へ学用品の配布と交通費を支給しました。また、学校・家庭訪問、個人面談を実施し、こども達の様子を把握しながらのサポートを実施しています。

[次年度に向けて]

来年度も海外ボランティア事業開催時における青空教室等のアクティビティの実施、ストリートチルドレンや貧困地域のこども達に対する学用品支援・奨学支援、小学校の栄養失調のこども達に対する給食支援を実施します。

事業内容：奨学支援、給食支援、青空教室等の活動を通じてストリートチルドレンと貧困地域のこども達をサポート
受益者層：オロンガボ市内のストリートチルドレン及び貧困地域のこども達 カステリヤホス町バライバイ小学校の栄養失調のこども達
担当者：山本浩平、帯川真智子、Kurais, Lindsay Jhen M

栄養失調のこども達への 給食支援

発展途上国のこども達に対して給食支援を行っているTable For Two様と協同で2014年よりカステリヤホス町バライバイ小学校での給食支援を実施しています。今年度も家庭の経済状況により普段から十分な栄養を摂取できていない栄養失調のこども達130名に給食を提供し、こども達の栄養状態を少しでも改善させ健康な状態で学業に励むことができるようにサポートしました。また、保護者向けの栄養講座を開催するなど、生徒の保護者に対する食事と栄養の重要性についての啓発活動も行いました。



ストリートチルドレン／貧困地域支援



貧困地域の女性の所得を向上



貧困地域の女性の所得を向上

女性の所得向上支援（マニラ）

女性の所得向上支援（オロンガポ）

お菓子の袋を再利用した商品で
フィリピンのお母さん達の所得を向上

2009年に開始した本事業は、こども達が健全に成長できる家庭環境を整えることと街の美化を目的に、女性達に職業を提供しています。お菓子の袋を再利用した製品「エコミスモ」を、フィリピンの首都マニラにある貧困地域のマラボン市で製作し日本で販売することで、製作者であり母親でもある女性達に適切な賃金を支払っています。現在は、5名の女性が製作に携わっています。開始当初よりも製作者の人数は減ってしまいましたが、少数精鋭で質の高い商品を製作できるようになりました。



2017年の製作・販売状況

エコミスモの製作を担当する女性達の多くが副業を始めたことで、以前よりも製作に時間がかかるようになりました。しかし、2017年にはシザーベルトの製作を再開し、人気カラーのミックスはすぐに完売となるなど、多くの方がエコミスモを気に入ってくださり、応援してくださっています。また、webサイトからの注文も定期的にあるため、今後は人気商品の在庫確保をどのように行っていくか現

地と調整する必要があります。また、以前は雑貨店や美容院で委託販売を行っていましたが、2017年は卸販売へと販売方法を変更しましたが、そのため、販売店舗数が大幅に減少しましたが、今後は販売店舗数増加も目指していきたいと思えます。2009年から8年間事業を実施し、製作担当の女性達の環境も少しずつ変化してきましたが、今後も継続的に事業を運営できるように、工夫して取り組んでいきたいと思えます。

[次年度に向けて]

2017年はフィリピンからの入荷数も減ってしまい、注文があったとしても在庫切れで販売ができないということが重なったため、2018年は売れ筋の商品から在庫を揃え、欠品で販売ができないということがないように製作管理を行っていききたいと思います。また、企業等とのコラボ商品の提案等も受けているため、安定した販売を行えるように様々な可能性を試していきたいと思えます。

事業内容： フェアトレード商品の製作及び販売
受益者層： マニラ首都圏マラボン市に暮らす母親世代の女性
担当者： 横田宗、長田幸子、Yabut, Grace G.

お母さん達が主体となって
商品製作ができるよう目指しています

2009年に開始した本事業では、オロンガポ市内の貧困地域の女性たちに対する仕事づくりを目的とし、アクセサリやバッグ、デコビーチサンダル等のフェアトレード商品を製作・販売しています。本事業に関わっている女性は、ほとんどが家事や育児をしながら自宅にて作業を行い、商品製作への対価を得ています。現在は3名の女性が製作に携っており、家族の生活を支えたいという思いから、日々製作に励んでいます。

国内ブランド『Feliz』の商品
2,002点を製作

今年度も国内のフェアトレード&エシカルアクセサリのブランド「Feliz」様より業務委託を受け、ピアスやネックレス、ブレスレット等の製作を行いました。製作に関わっている女性の人数は少ないですが、前年度とほぼ同じ数のオーダーに対応することができました。昨年と比べると収入は少し減ってしまいましたが、お母さん達は「定期的にオーダーがあり、収入を得ることができると助かっている。何よりアクセサリ作り自体がとても楽しい。」と、商品製作に積極的に取り組んでいます。



オリジナル商品
168点を製作・販売

今年度も、レジ袋を利用してつくるバッグやポーチ、雑誌などの紙を再利用したペーパービーズを使ったピアス等のアクセサリ、ビーチサンダルにデコレーションするデコビーチサン等の商品の製作を行いました。また、今年度はフィリピン国内におけるバザーにも出店しました。さらにオロンガポ事務所にも商品をディスプレイし、現地を訪れたビジターや、事務所を訪れたフィリピンの方々など、多くの方々に商品を知ってもらい、販売することができました。

Feliz代表のワークショップ

新商品の使用に合わせた技術を身に付けるため、そしてより質の高いアクセサリ製作のため、Feliz代表の柿本様に現地へお越しいただき、8月上旬に3日間のワークショップを実施しました。ワークショップでは、新しいデザインの商品の製作はもちろん、マテリアルの整理・管理の仕方などについても学びました。お母さん達は、新しい技術や知識を身に付けることが大好きなので、ワークショップもとても楽しんでいました。

[次年度に向けて]

今年度は、昨年度に続くFeliz様との業務提携、そして商品製作に対するお母さん達の熱心な取り組みにより、製作数とお母さん達の収入額を昨年度とほぼ等しく維持することができました。また、課題として残っていた商品やマテリアルの在庫管理等の仕組みづくりに対する様々な取り組みも行い、管理体制も向上してきています。しかし、管理体制はまだ完全とは言えず、いくつか課題が残っているので、来年度は製作数と収入額を維持しつつ、商品とマテリアルの管理体制のさらなる徹底を行っていきます。

事業内容： フェアトレード商品の製作及び販売
受益者層： オロンガポ市に暮らす母親世代の女性
担当者： 山内志乃



海外ボランティア体験事業

延べ95名の参加者をフィリピンへ派遣

今年度は昨年度と同様に、孤児院ボランティア、ストリートチルドレンボランティア、短期インターンプログラム、ダンス交流ツアーの4プログラムのラインナップでプログラムを開催しました。参加者数は、春と夏の計12日程で95名(前年度比18名減)となり、今年も全国各地、高校生から社会人まで幅広く参加者が集まりました。孤児院ボランティアでは、2月3月8月のプログラムで遊び道具作りを、9月プログラムで子ども達が暮らすコテージ修繕を行いました。滞在先であり活動地である孤児院「ジャイラホーム」では、昨年よりもさらに年齢の小さな子ども達が増えたこともあり、一緒に遊んでくれ、沢山の愛情を注いでくれるボランティアの皆さんはとても大きな存在となっています。ストリートチルドレンボランティアはこれまで7泊8日の日数でやっていたが、8月は8泊9日、9月は9泊10日となり、例年よりも少し長い期間でプログラムを実施しました。8月の短期インターンでは数年ぶりに代表の横田が全日程の引率を担当。プログラム中の解説はもちろん、プロジェクト企画やプレゼンテーションを行なう際のコツやポイント、横田の今日にいたるまでの歩みや経験談等、横田自身のこれまでの活動経験を惜しみなく伝える特別講座を毎日実施し、横田ならではのアクションならではのインターンとなりました！ダンス交流ツアーは8月プログラムに過去最多となる8名が参加。ダンス経験者も未経験者も関係なくみんなで協力し合い、今年度も最高のフラッシュモブを成功させてくれました！



2017年開催プログラム一覧

- 孤児院ボランティア
●ダンス交流ツアー
●ストチルボランティア
●短期インターンプログラム
●学生団体/有志グループ(敬称略)
株式会社シチズン時計
学生団体YELL
TABLE FOR TWO
アクションYouth

[次年度に向けて]

今年度は昨年度に比べ参加総数は減りましたが、各プログラム少人数だったからこそ子ども達や地域の方達と密な関係を築けたこともあり、帰国後に何かしらの形で活動を続けてくれた方が多い1年でした。次年度は参加者数の増加を目指すと共に、各プログラムで現地のニーズに沿ったより良い活動が出来るよう、そして参加者と子ども達や地域の方達の間により良い関係が築けるプログラムを実施していけるよう努めたいと思います。

Table with 1 column and 3 rows: 事業内容: 国際ボランティア体験事業, 受益者層: フィリピンの児童養護施設や貧困地域の子ども達、ストリートチルドレン/日本の青少年, 担当者: 畝尾知佳、帯川真智子、山本浩平、山内志乃

算数教室と居場所スペースで
子ども達の「生きるチカラ」を育む

2016年11月からスタートした日本事務局が運営する「コドリーム」では、地域の子ども達の「生きるチカラ」を育むために、算数教室の運営と居場所スペースの開放を行っています。また、週末には子ども向けのワークショップも開催し、子ども達が様々な経歴の大人と出会い、学校の授業では得られない学びを得られる機会を提供しています。



コドリームの活動内容

- 算数教室
算数と学習指導を専門で扱う「でき太くんの算数クラブ」と提携し、プリント学習を実施。
□ 居場所スペース
算数教室が開催されない曜日は、算数教室の生徒以外でも利用できる無料の居場所スペースとして開放。
□ ワークショップ
週末に様々なテーマでワークショップ等のイベントを開催。

2017年に実施したイベント内容

- 2月19日(日) 味噌作りワークショップ 参加人数: 子ども5名、大人6名
3月 5日(日) ヘアアレンジワークショップ 参加人数: 子ども6名、大人4名
4月 8日(土) 手話&車いすへの理解を深めるワークショップ 参加人数: 子ども11名、大人8名
5月 5日(金) こどもの日を祝おうスペシャルイベント 参加人数: 子ども2名
6月18日(日) せっけん&バスボム作りワークショップ 参加人数: 子ども10名、大人5名
7月 7日(金) セタかざり作りワークショップ 参加人数: 子ども5人
8月19日(土) キーホルダー作りワークショップ 参加人数: 子ども2人
9月 2日(土) 月と地球の不思議を学ぶ会 参加人数: 子ども8名、大人2名
9月10日(日) 「かんでん」について学んで食べる会 参加人数: 子ども2名
10月14日(土) ディズニールランドのショーに出る方法を学ぶ会 参加人数: 子ども3名
10月15日(日) お金について学ぶ会 参加人数: 子ども4名
11月23日(木) お花をいけてみる会 参加人数: 子ども6名
11月 3日(金) 芸術の秋を楽しむ会 参加人数: 子ども4名 (参加延べ人数: 子ども68名、大人27名)

[次年度に向けて]

2017年は算数教室は5名、居場所スペースは15名の子ども達が利用しました。2016年末からスタートした本事業ですが、子ども達にとってよりよい場所にすべく試行錯誤を行ってきました。2018年は、現在のコドリームが提供できるものを精査し、算数教室と週末のイベントを柱に事業を行っていきます。また、日本の児童養護施設での算数教室もスタートする予定です。

Table with 1 column and 3 rows: 事業内容: 日本の子ども達の「生きるチカラ」を育むためのプロジェクト, 受益者層: 武蔵野市及び近隣地域の小学生, 担当者: 長田幸子、五味力(理事)

コドリーム(算数教室/居場所スペース)

土曜学校「世界を知る会」 講座全体のコーディネートを担当

昨年度から講座全体の運営コーディネートをアクションで担当している、武蔵野市の土曜学校「世界を知る会」、通称せしるが今年度も開講されました。昨年度は4ヶ月の間に月1~2回のペースで全5回の講座を行いました。今年度は夏休み前に全講座が修了するよう、6月7月の2ヶ月間で全5回の講座を実施。期間としては例年より短くなりましたが、その分講座全体の流れは分かりやすくなり、講座としてのまとまりもより出す事が出来たのではないかと思います。受講生の人数も数年ぶりに20名を上回り、小学4年生~6年生の子ども達22名が参加してくれました。今年度も例年同様、教員の皆さんや外国人留学生の皆さんを講師としてお招きし様々なテーマで世界について学びを深めたと共に、フィリピンの小学生との文通やテレビ電話交流を行いました。受講生の子ども達の積極性も高く、今年も活発な多文化交流の場・機会を提供することができました！

- 《2017年度の実施講座》
- ①世界を丸ごと見てみよう(世界がもし100人の村だったらWS)
 - ②世界のことばに会おう！(ことばに関するゲーム等)
 - ③世界の人々と会おう！(留学生の皆さんによるお国の紹介)
 - ④世界の人々と分かり合い、助け合う方法を考えよう！(元青年海外協力隊員による現地での体験談)
 - ⑤フィリピンの小学生とテレビ電話で交流しよう！



中学校・高校・大学等へ講師を派遣

アクションでは中学校・高校での授業や、大学の講義・講演への講師派遣を行なっています。今年度派遣を行なった学校は以下の通りです。今年度は学校での授業だけでなく、公民館での国際理解プログラム等に講師としてお呼びいただき、「世界がもし100人の村だったら」の出張ワークショップも行いました。

- 《2017年度 講師派遣》
- ・筑波大学付属小学校
 - ・東京都立杉並総合高等学校
 - ・亜細亜大学
 - ・関西学院大学
 - ・青山学院女子短期大学
 - ・田名公民館(出張ワークショップ)
 - ・できたくんの自然哲学塾(出張ワークショップ)

[次年度に向けて]

次年度の世界を知る会では、開催が少しずつ近づいている東京オリンピックにちなんだ内容も含めつつ、引き続き子ども達が世界を広げたり、世界を知ることへの楽しさを感じたりすることの出来る講座運営を目指していきます。また2020年の東京オリンピックに向けて、学校教育の現場でも国際理解教育に対する興味・関心は高まっている為、各学校への講師派遣や出張ワークショップの実施も積極的に取り組んでいきたいと思っております。

事業内容：土曜学校「世界を知る会」の実施・運営、学校への講師派遣
受益者層：武蔵野市の小学4~5年生、日本国内の学生
担当者：畝尾 知佳、長田幸子、山本浩平、山内志乃

日本の児童養護施設へ ボランティアスタッフを派遣

当団体では過去の海外ボランティア参加者に呼びかけ、日本の児童養護施設で様々な事情で家族と離れて暮らす子ども達と一緒に遊んだり、イベント時にサポートに入ったりするボランティア派遣を行っています。今年度は東京都立川市にある児童養護施設へ休日の遊びボランティアとイベント時のボランティア派遣を行ないました。遊びボランティアは1月から9月まで、月に1度のペースでボランティアを派遣。子ども達と園庭でサッカーや野球をしたり、施設内で飼われている鶏と戯れたり、施設の敷地をめぐって鬼ごっこをしたりと、子ども達と交流を深めました。1度の訪問は3時間~4時間と短い時間ですが、定期的に施設を訪問することで子ども達も顔を覚えてくれ、「あのお兄さんは次いつ来る?」「また遊ぼうね」など声をかけてくれる子ども達も増えました。今年度は夏休みの期間に施設主催で行われたサマーキャンプにもボランティアを派遣し、2泊3日子ども達と寝泊りを共にしました。同じ時間を過ごすこと、そして体験を共にすることで子ども達との距離も縮まり、数時間の遊びボランティアでは見ることでできない子ども達の様子や表情にも触れることのできた貴重な機会となりました。また11月に行われた児童養護施設の子ども達の発表会で、今年度も例年同様ヘアメイクボランティアを実施。舞台上がる子ども達のメイクや髪の毛のセットを行ないました。ヘアメイクを終え舞台上がった子ども達は、今年もキラキラの笑顔を見せてくれました！



2017年のボランティア派遣実績

- 1月15日：遊びボランティア 3名
- 2月18日：遊びボランティア 4名
- 3月18日：遊びボランティア 4名
- 4月15日：遊びボランティア 4名
- 7月9日：遊びボランティア 3名
- 8月16日~18日：サマーキャンプ 2名
- 9月24日：遊びボランティア 4名
- 11月19日：発表会でのヘアメイクボランティア 3名

[次年度に向けて]

次年度も引き続き、過去の海外ボランティア参加者に呼びかけ定期的に施設へのボランティア派遣を行ないます。遊びボランティアやイベントへのボランティア派遣で、ボランティアスタッフと施設の子ども達との交流の様子を見てきた中で、子ども達と関わっていく上で信頼関係を築いていくことが何よりも大切であることを改めて感じた為、次年度は本年度以上に安定してボランティアを派遣出来る体制を整え、遊びボランティアやイベントボランティアをより有意義なものにしていきたいと考えています。またフィリピンでの活動を経て、児童福祉という分野に興味を持ってくれる参加者も多いため、そうした人達が実際に活動を継続出来る場としても、ボランティア派遣の機会を提供していければと思います。

事業内容：日本の児童養護施設へのボランティア派遣
受益者層：日本の児童養護施設で保護されている子ども達
担当者：畝尾 知佳